

第二幕第三場 森

エドガー 俺を捉えるよう布告が出たらしい。
どの港も封鎖され、至るところに
見張りが立って徹夜で目を光らせている。
逃げられるかぎり逃げ延びるんだ。そうだ、
いいことを思い付いた。
うんと卑しい、あさましい姿に身をやつそう。
貧しさに追いつめられ、人間らしさのかけらも
ない畜生同然の姿にな。顔には泥を塗りたくり、
腰にはぼろ一枚。髪はくしゃくしゃにもつれさせ、
裸をさらして、風や雨という
空からの追手に立ち向かおう。
国じゅうをうろつく気違い乞食が
いいお手本だ。
あいつらは恐ろしい声でわめき散らし、
感覚を失なったむき出しの腕には
ピンや木串、釘やローズマリーの小枝を
突き刺している。
この見るも無残な格好で、貧しい百姓家や
小さな村や、羊小屋や水車小屋を訪ね、
時には狂気の呪いを浴びせ、時には祈りを唱えて
施しをせがもう。哀れなトムだよ！
そうすればまだ何とか生きられる。
エドガーのままではどうにもならない。(退場)

「リア王」作 W・シェイクスピア

訳 松岡和子

ちくま文庫発行 参照